

(2/3) 朝日

2度目の介護離職で「命の競争」

無職

(東京都 64)

11月30日で約40年間続けた日本語教師の仕事を辞めた。3年前に大学の専任教員を介護離職して、北海道から帰京した。以後、94歳の母の介護をしつつ、非常勤講師としていくつかの教育機関で教えってきた。しかし、母の認知症が進

するが、在宅介護をある中で思うのは、母親が先に死ぬか、私が先か、今まさに「命の競争」になつてているところ」とである。

行い、長時間1人で在宅ではおけないと、2度目の介護離職を決断した次第である。最初の離職の時、いざれ介護にかかりきりになり、非常勤の仕事も辞める時間が来るだらうと覚悟はしていた。だが「セカンド介護離職」は意外と早く訪れた。国は「在宅医療・介護の推進」を提唱だらうか。答えは見えてこない。

母は「この家でお前に最後まで介護してもらひて、お前に看取られて死にたい」と言つ。その言葉を聞くたび、いくつかの介護に関する暗い話題が頭をよぎる。私は果たして、在宅での母の看取りという「ゴール」にたどり着けるの